
境町高齢者実態調査 結果の概要

令和8年 10 月
境町

第1章 調査実施の概要

1 調査の目的

令和8年度に境町第10期高齢者福祉計画・介護保険事業計画を策定するにあたり、その事前調査として、町内の高齢者の生活実態や地域の課題等を的確に把握・分析し、次期計画において、高齢者のニーズに沿った高齢者福祉施策の推進並びに介護サービスの導入を図ることを目的に実施したものです。

2 調査の種類

調査名	調査対象	対象者数	配付・回収
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	要介護1～5以外の高齢者（抽出）	1,200人	郵送配付・郵送回収
②在宅介護実態調査	要支援・要介護認定を受けている在宅の高齢者	131人	認定調査員による聞き取り調査
③介護支援専門員調査	サービス提供地域に境町が含まれる居宅介護支援事業者の介護支援専門員	29人	郵送配付・郵送回収
④サービス提供事業者調査	境町及び境町の近隣で事業を展開するサービス提供事業者	26か所	郵送回収・郵送回収

3 調査期間

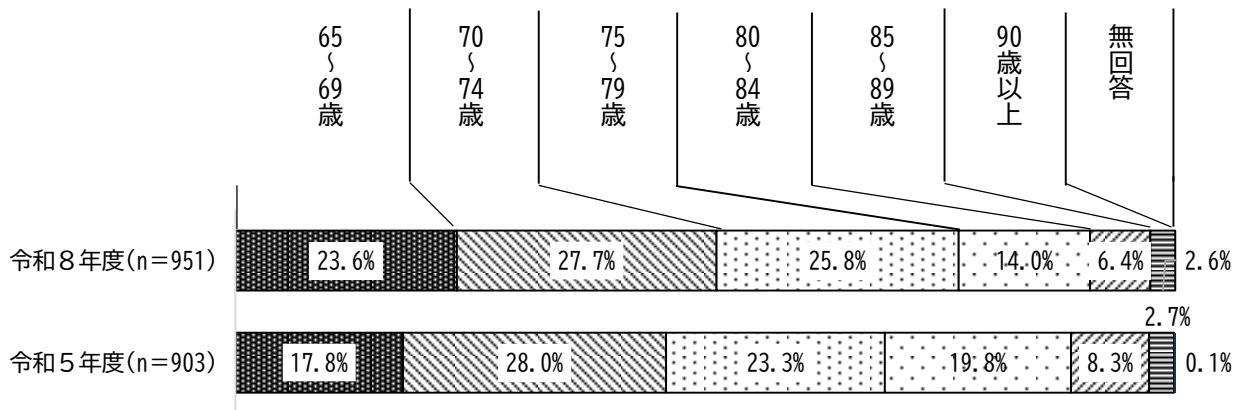
- ①……令和7年11月25日（火）～令和7年12月26日（金）
- ②……令和7年10月21日（火）～令和8年5月15日（金）
- ③・④…令和8年4月20日（月）～令和8年5月15日（金）

4 回収数と回収率

調査名	配布数	回収数	回収率
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	1,200件	951件	79.3%
②在宅介護実態調査	131件	131件	100.0%
③介護支援専門員調査	29件	23件	79.3%
④サービス提供事業者調査	26か所	24か所	92.3%

第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

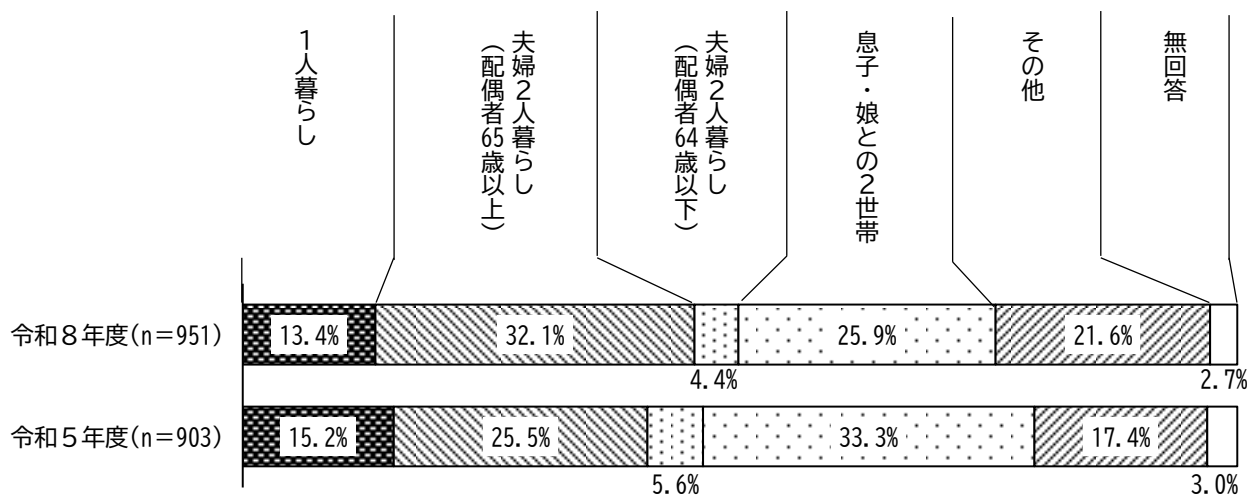
(1) 回答者の年齢



回答者の年齢では、「70～74歳」が27.7%で最も高く、「65～69歳」(23.6%)を合わせた《前期高齢者》は51.3%で、「75歳以上」の《後期高齢者》は48.8%となっています。令和5年度調査との比較では、《前期高齢者》が5.5ポイント増加しています。

(2) 世帯の状況

問 家族構成をお教えてください

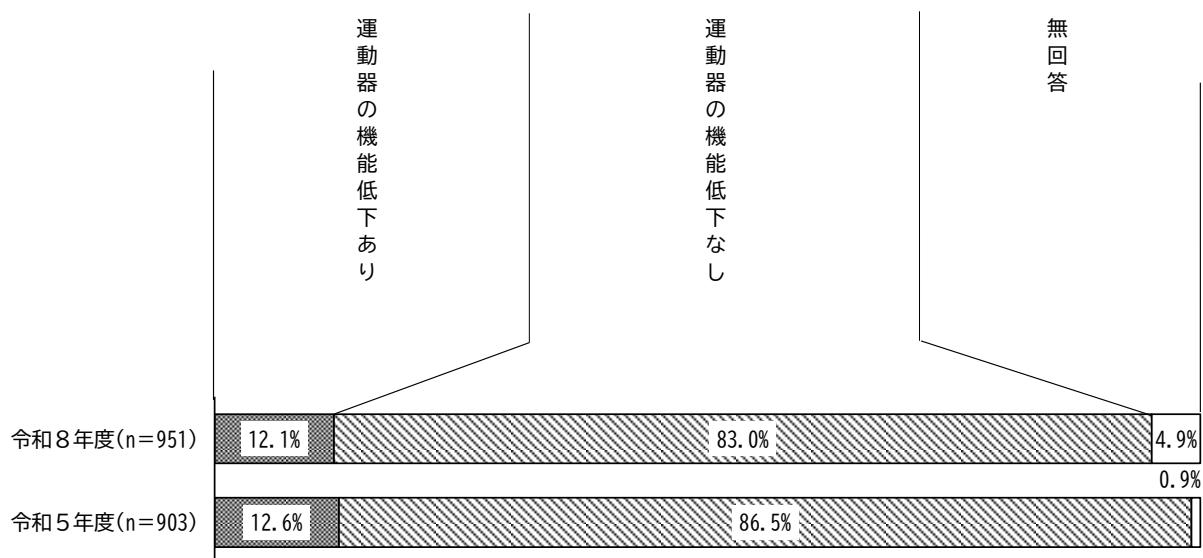


家族構成では、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が32.1%で最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が25.9%、「その他」が21.6%、「1人暮らし」が13.4%となっています。

(3) 運動器機能の評価

設問内容【問2】	配点	選択肢	
問 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	0	1. できるし、している	56.4%
	0	2. できるけどしていない	25.8%
	1	3. できない	16.1%
	0	無回答	1.8%
問 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	0	1. できるし、している	75.8%
	0	2. できるけどしていない	13.0%
	1	3. できない	9.5%
	0	無回答	1.7%
問 15分位続けて歩いていますか。	0	1. できるし、している	71.8%
	0	2. できるけどしていない	19.2%
	1	3. できない	7.9%
	0	無回答	1.1%
問 過去1年間に転んだ経験がありますか。	1	1. 何度もある	10.1%
	1	2. 1度ある	24.0%
	0	3. ない	64.7%
	0	無回答	1.3%
問 転倒に対する不安は大きいですか。	1	1. とても不安である	14.8%
	1	2. やや不安である	39.2%
	0	3. あまり不安でない	28.9%
	0	4. 不安でない	15.6%
	0	無回答	1.5%

★合計が3点以上で「運動器機能が低下している高齢者」と判定



これらの設問は、『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き』において、運動器の機能低下を問うものとされており、5つの設問で3問以上、機能低下に該当する選択肢が回答された場合は、運動器機能の低下している高齢者と考えられています。

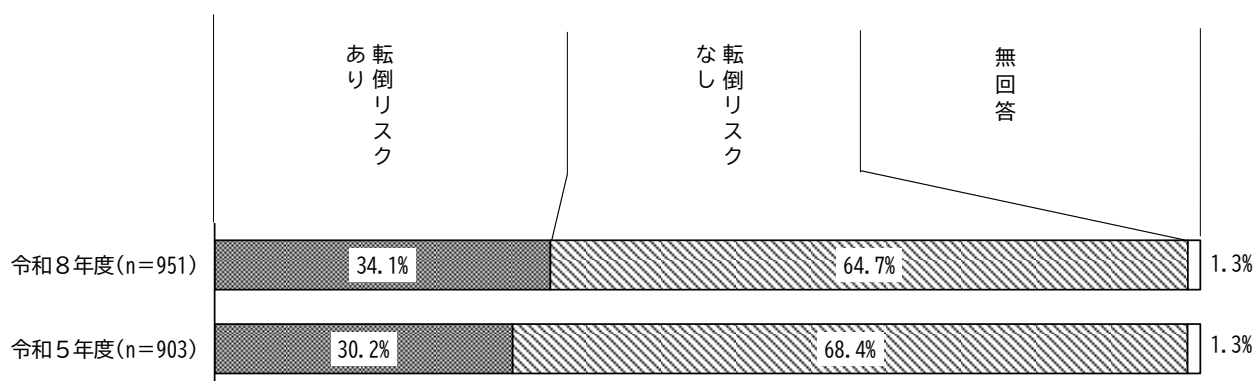
回答状況を整理した結果、「運動器の機能低下あり」は12.1%となっています。令和5年度調査との比較では「運動器の機能低下なし」が3.5ポイント減少しています。

(4) 転倒経験と転倒への不安

設問内容【問2】	選択肢	
問 過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある	10.1%
	2. 1度ある	24.0%
	3. ない	64.7%
	無回答	1.3%
問 転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である	14.8%
	2. やや不安である	39.2%
	3. あまり不安でない	28.9%
	4. 不安でない	15.6%
	無回答	1.5%

これらの設問は、『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き』において、転倒リスクを問うものとされており、“過去1年間に転んだ経験がありますか”で「何度もある」か「1度ある」に該当する選択肢が回答された場合は、転倒リスクのある高齢者と考えられます。

回答状況を整理した結果、「転倒リスクあり」は34.1%となっています。令和5年度調査との比較では「転倒リスクあり」が3.9ポイント増加しています。



“転倒に対する不安は大きいですか”という設問は、転倒リスクの分析を補完し、今後の事業内容等を検討する際の参考とするものです。

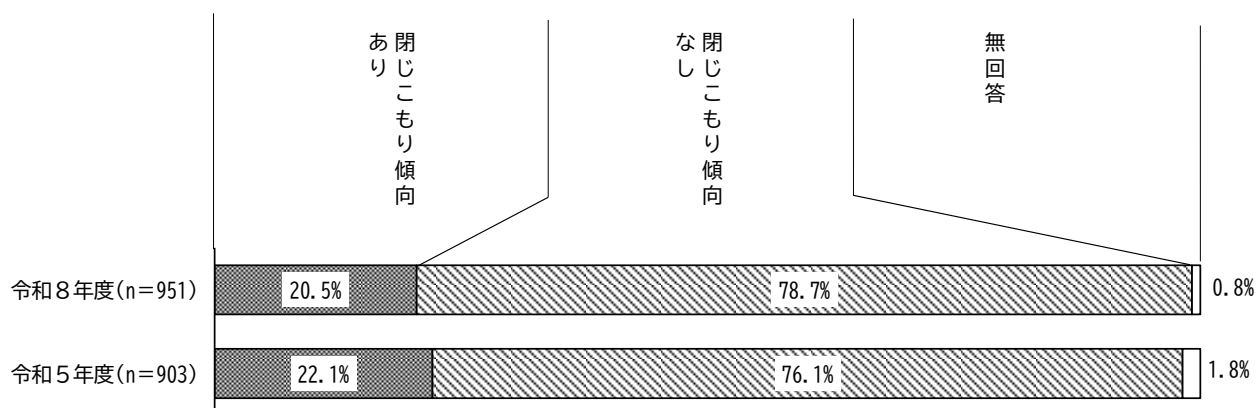
図表は割愛していますが、令和5年度調査との比較では、「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた「不安である」の合計は4.3ポイント増加しています。

(5) 閉じこもり

設問内容【問2】	選択肢	
問 週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない	4.9%
	2. 週1回	15.6%
	3. 週2～4回	45.5%
	4. 週5回以上	33.1%
	無回答	0.8%
問 昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. とても減っている	3.8%
	2. 減っている	22.1%
	3. あまり減っていない	36.3%
	4. 減っていない	36.8%
	無回答	1.1%

これらの設問は、『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き』において、閉じこもりの傾向を問うものとされており、“週に1回以上は外出していますか”で「ほとんど外出しない」か「週1回」に該当する選択肢が回答された場合は、閉じこもり傾向のある高齢者と考えられます。

回答状況を整理した結果、「閉じこもり傾向あり」は20.5%となっています。令和5年度調査との比較では、特に大きな違いはみられません。



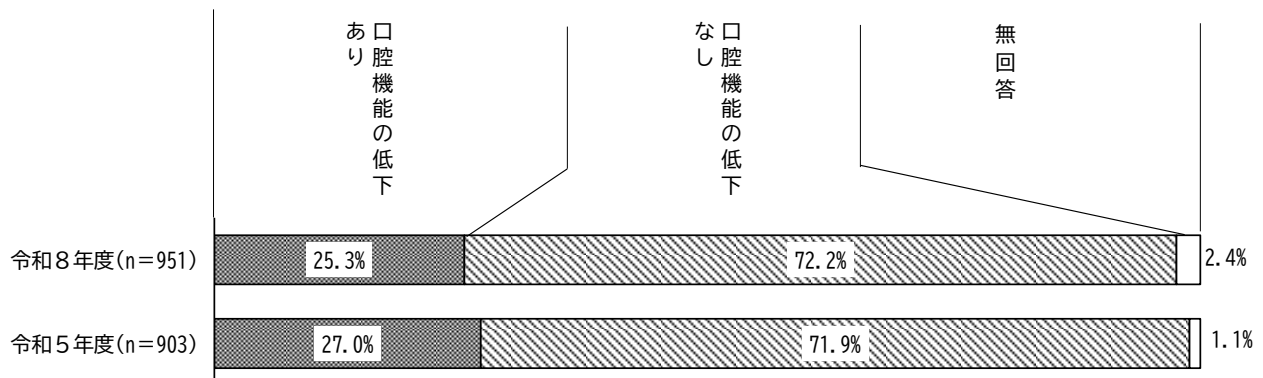
“昨年と比べて外出の回数が減っていますか”という設問は、閉じこもり傾向の分析を補完し、今後の事業内容等を検討する際の参考とするものです。図表は割愛していますが、令和5年度調査との比較では、特に大きな違いは見られません。

(6) 口腔機能（咀嚼機能）

設問内容【問2】	選択肢	
問 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい	36.3%
	2. いいえ	62.6%
	無回答	1.2%
問 お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい	26.2%
	2. いいえ	72.9%
	無回答	0.9%
問 口の渇きが気になりますか	1. はい	26.9%
	2. いいえ	71.8%
	無回答	1.3%

これらの設問は、『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き』において、口腔機能の低下を問うものとされており、3つの設問で2問以上、「はい」が回答された場合は、口腔機能の低下している高齢者と考えられます。

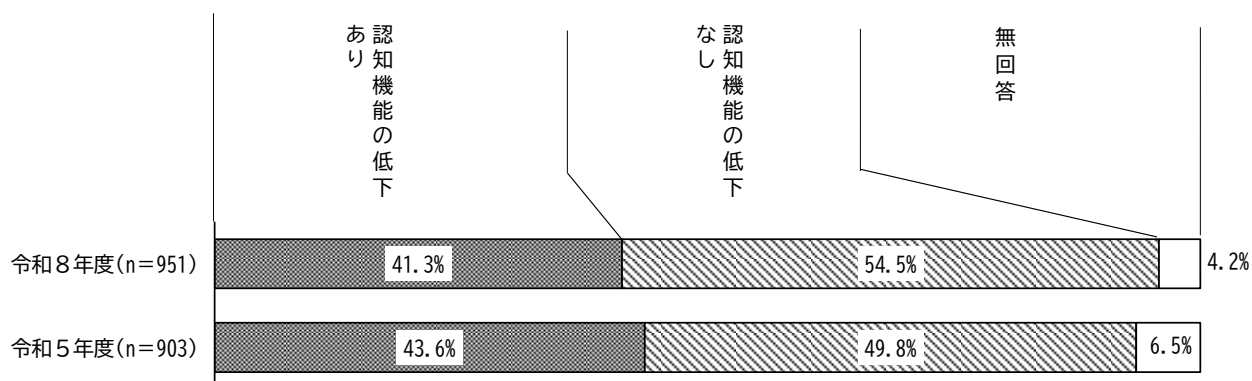
回答状況を整理した結果、「口腔機能の低下あり」は25.3%となっています。令和5年度調査との比較では、特に大きな違いはみられません。



(7) 認知機能

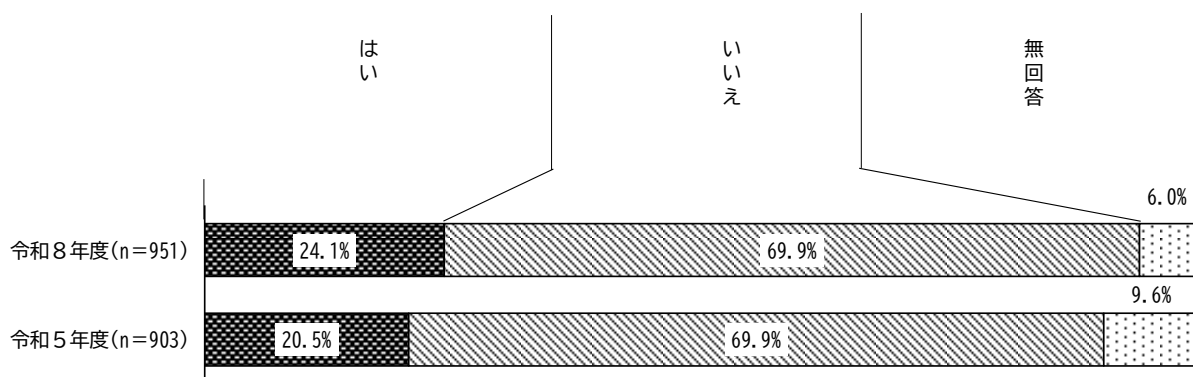
設問内容【問2】	選択肢	
	1. はい	41.3%
	2. いいえ	54.5%
	無回答	4.2%

この設問は、『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き』において、認知機能の低下を問うものとされており、「はい」は認知機能の低下が見られる高齢者と考えられます。「認知機能の低下あり」は41.3%で、「認知機能の低下なし」が54.5%となっています。令和5年度調査との比較では、「認知機能の低下なし」が4.7ポイント増加しています。



(8) 認知症に関する相談窓口の認知状況

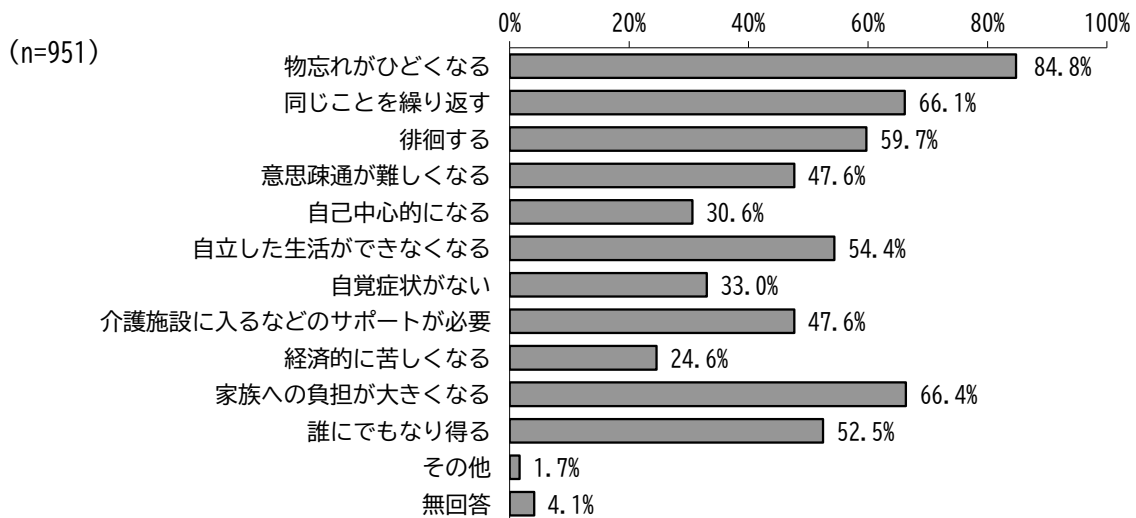
問 認知症に関する相談窓口を知っていますか（○は1つ）



認知症に関する相談窓口の認知状況では、「はい」が24.1%で、「いいえ」が69.9%と高くなっています。令和5年度調査との比較では、「はい」（認知症に関する窓口を知っている）が3.6ポイント増加しています。

(9) 認知症のイメージ

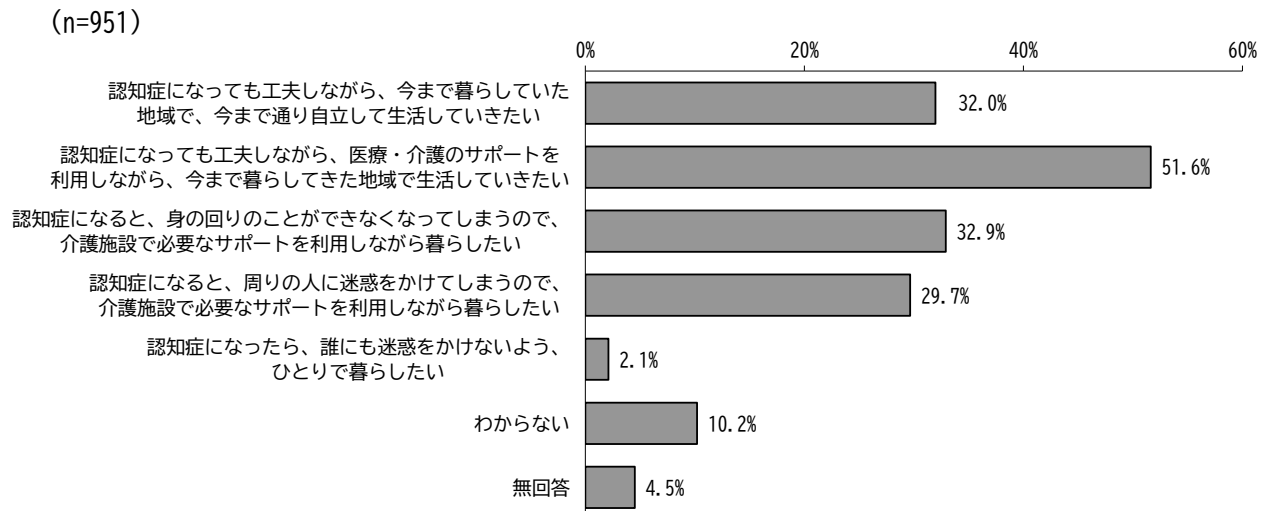
問 「認知症」と聞いてどのようなイメージがありますか（いくつでも）



「認知症」と聞いてどのようなイメージがあるかについて、「物忘れがひどくなる」が84.8%と最も高く、次いで、「家族への負担が大きくなる」が66.4%、「同じことを繰り返す」が66.1%となっています。

(10) 認知症になってからの生活意向

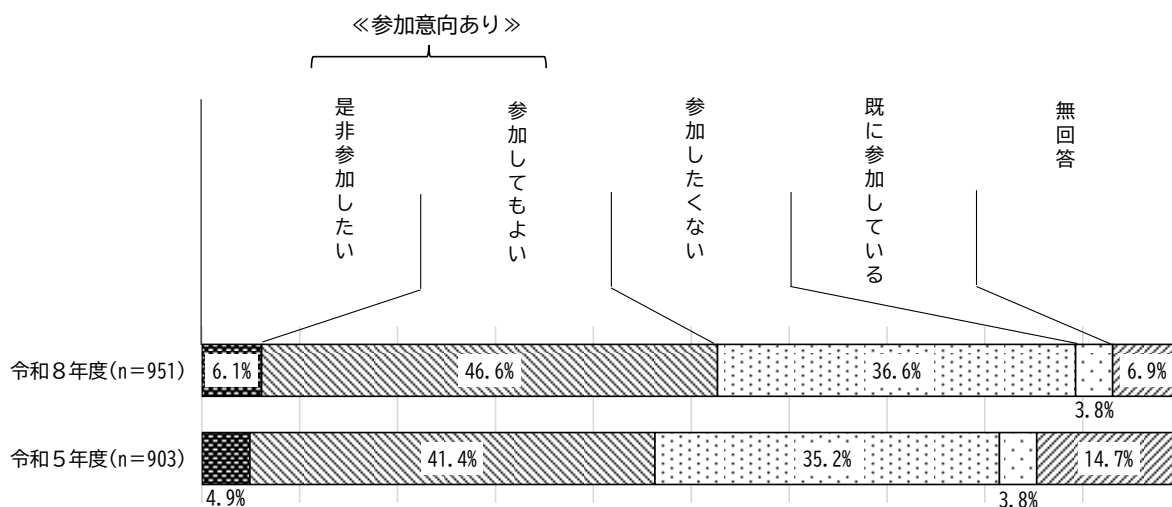
問 もしあなたや家族が認知症になったら、どのように暮らしていきたいですか



もしあなたや家族が認知症になったら、どのように暮らしていきたいかについては、「認知症になっても工夫しながら、医療・介護のサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい」が51.6%と最も高く、次いで、「認知症になると、身の回りのことができなくなってしまうので、介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい」が32.9%、「認知症になっても工夫しながら、今まで暮らしていた地域で、今まで通り自立して生活していきたい」が32.0%となっています。

(11) 地域づくりを進める活動への参加者としての参加意向

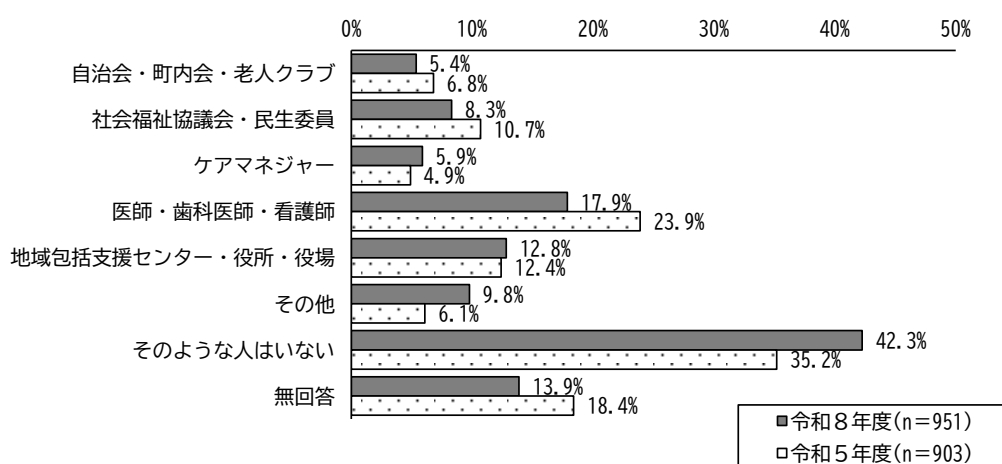
問 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(〇は1つ)



健康づくり活動等の参加者としての参加意向では、「参加してもよい」が46.6%と最も高く、「是非参加したい」(6.1%)と合わせた「参加意向あり」は52.7%となっています。一方、「参加したくない」は36.6%となっています。令和5年度調査との比較では、「参加意向あり」が6.4ポイント増加しています。

(12) 家族や友人・知人以外で何かあった時に相談する相手

問 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手を教えてください(いくつでも)

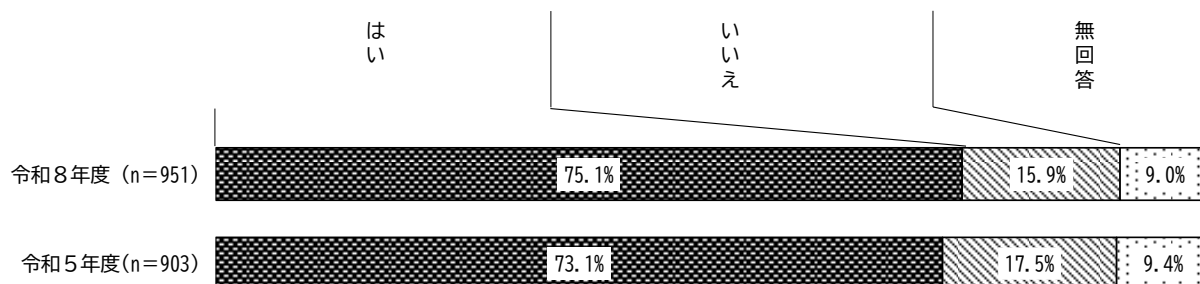


家族や友人知人以外で、何かあった時に相談する相手の有無は、「相談する相手がいる」が43.8%で、「そのような人はいない」は42.3%となっています。具体的な相談相手としては、「医師・歯科医師・看護師」が17.9%で最も高くなっています。令和5年度調査との比較では「医師・歯科医師・看護師」が6.0ポイント減少しています。

※「相談する相手がいる」=100%－「そのような人はいない」－「無回答」

(13) 自宅での在宅医療や介護の希望意向

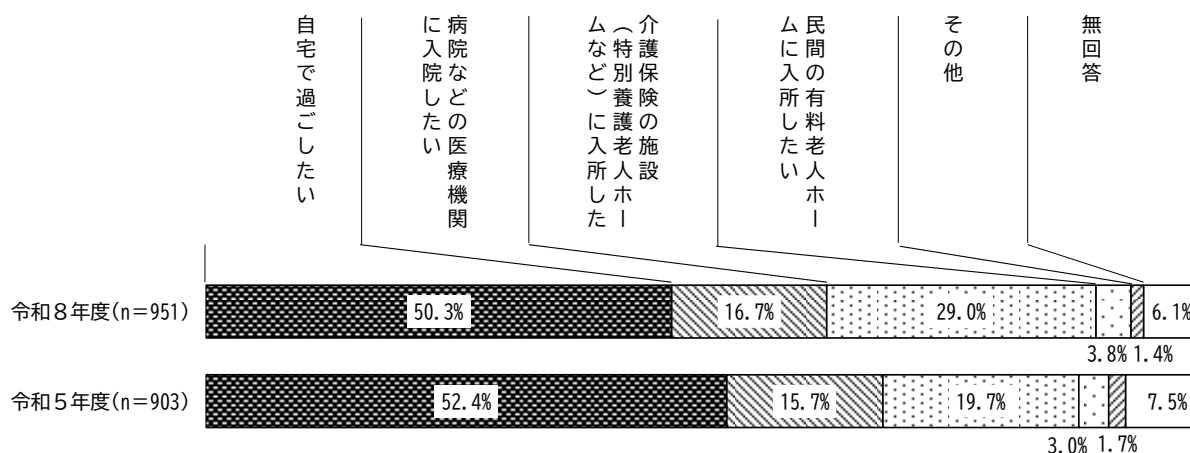
問 あなたが病気等により在宅で過ごすことになったとき、在宅医療（訪問医療）を希望しますか



病気等により在宅で過ごすことになった場合の在宅医療の希望については、「はい」が75.1%と、「いいえ」(15.9%)を大きく上回っています。令和5年度調査との比較では、特に大きな違いはみられません。

(14) 今後、医療や介護が必要になったときに過ごしたい場所

問 今後、医療や介護が必要になったとき、どこで過ごしたいですか

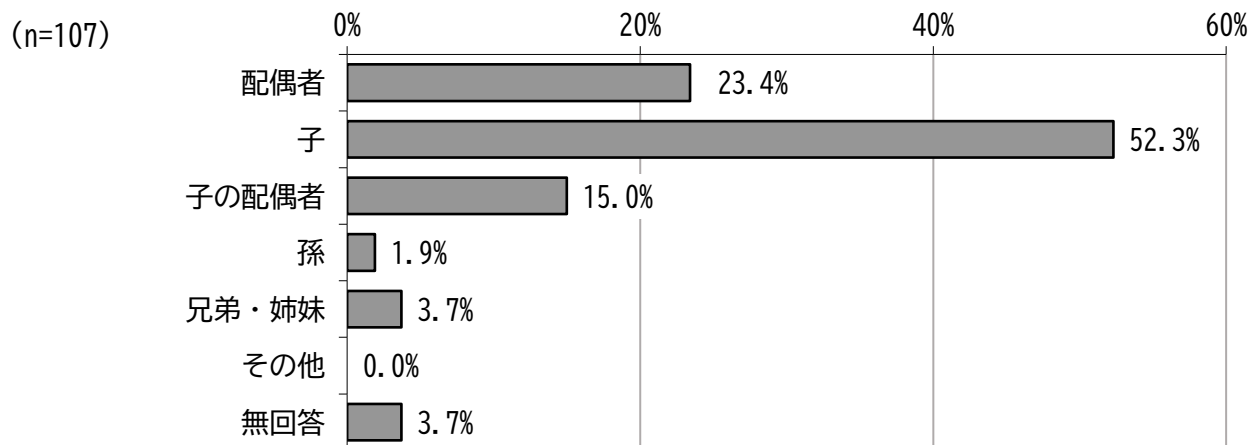


今後、医療や介護が必要になったときに過ごしたい場所では、「自宅で過ごしたい」が50.3%と最も高く、次いで「介護保険の施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」が29.0%、「病院などの医療機関に入院したい」が16.7%などとなっています。令和5年度調査との比較では、「介護保険の施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」が9.3ポイント増加しています。

第3章 在宅介護実態調査結果

(1) 主な介護者の本人との関係

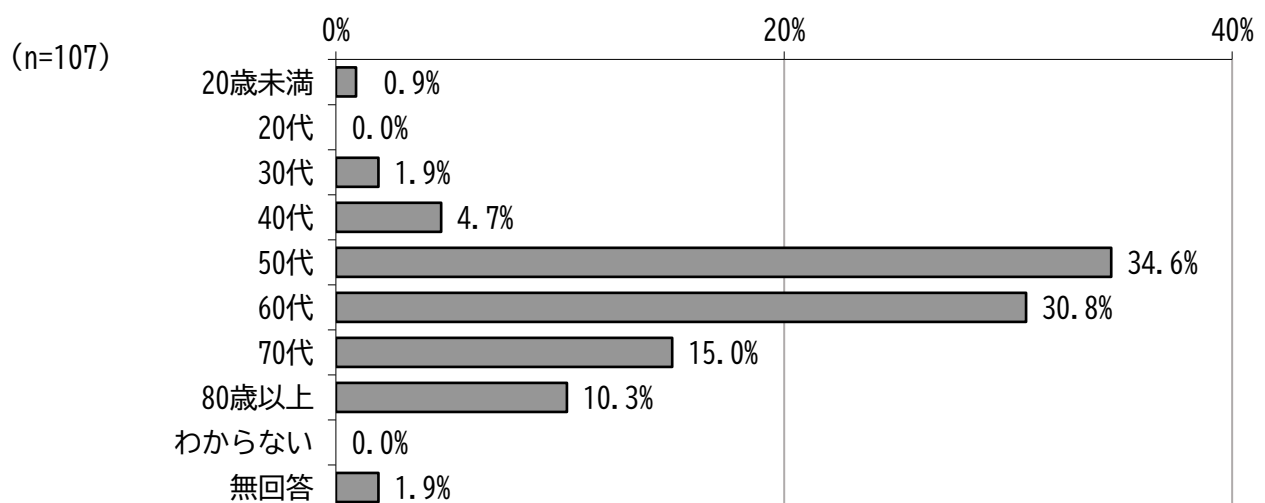
問 主な介護者の方は、どなたですか（1つを選択）



主な介護者については、「子」が52.3%と最も高く、次いで、「配偶者」が23.4%、「子の配偶者」が15.0%となっています。

(2) 主な介護者の年齢

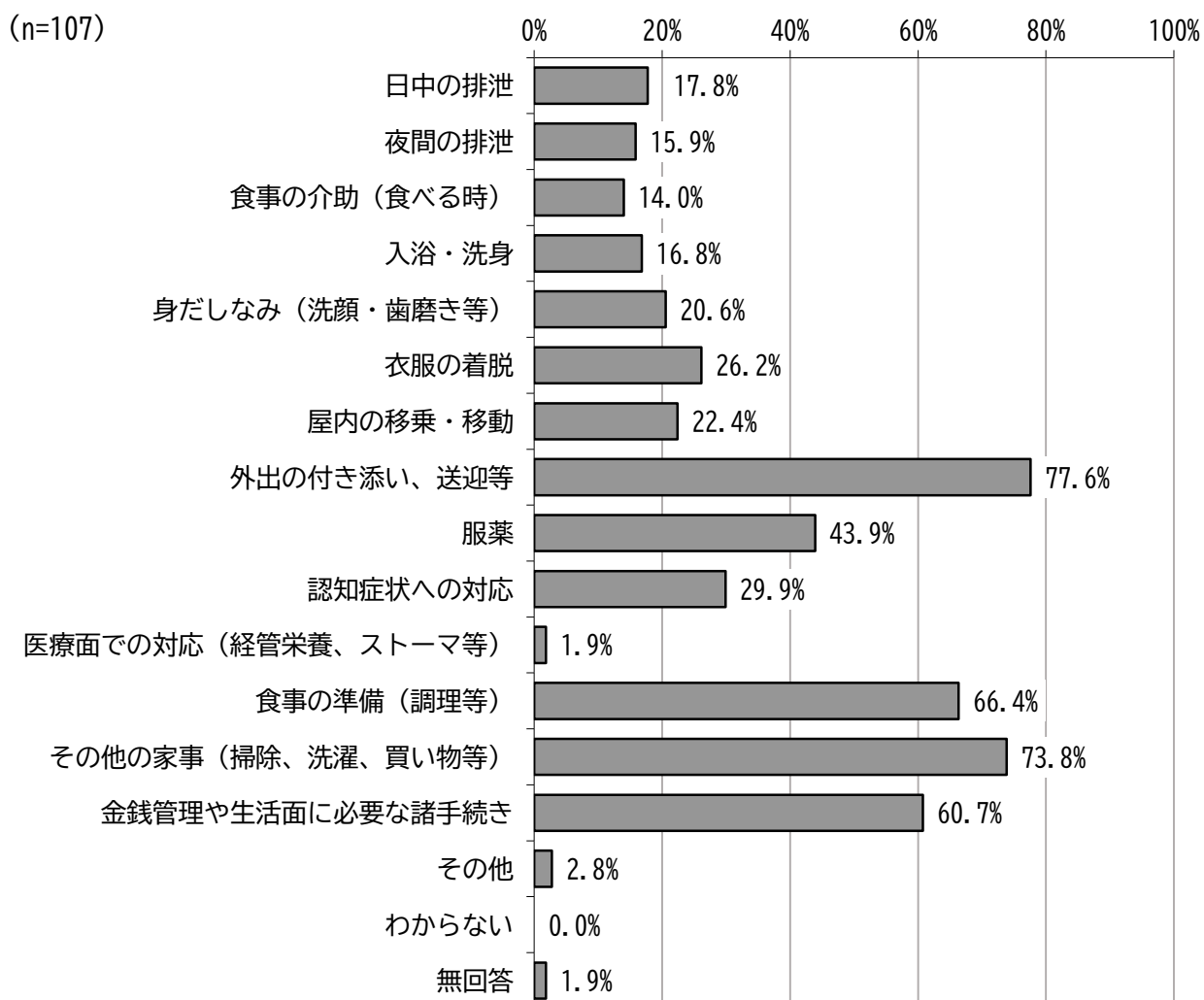
問 主な介護者の年齢について、ご回答ください（1つを選択）



主な介護者の年齢については、「50代」が34.6%と最も高く、次いで、「60代」が30.8%、「70代」が15.0%となっています。

(3) 主な介護者が行っている介護

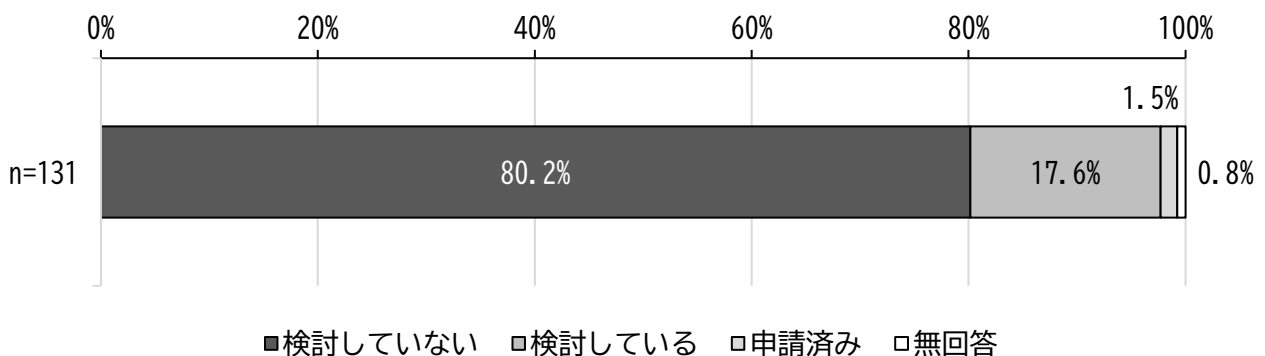
問 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください（複数選択可）



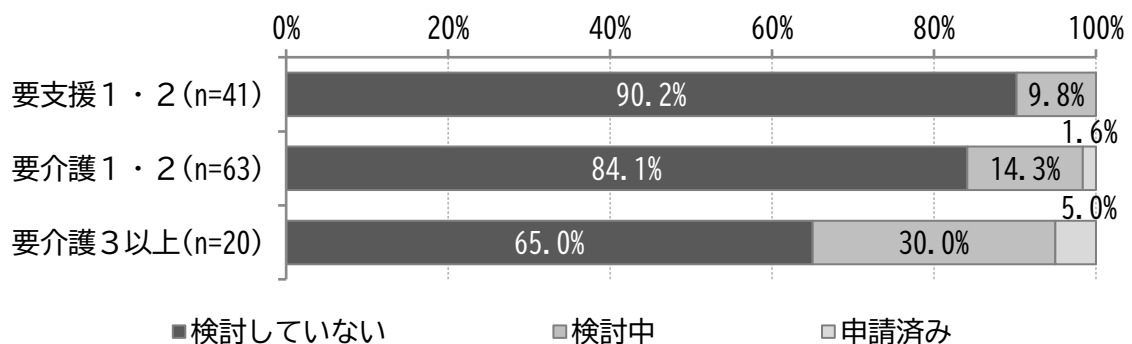
現在、主な介護者からの介護内容については、「外出の付き添い、送迎等」が 77.6%と最も高く、次いで、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 73.8%、「食事の準備（調理等）」が 66.4%となっています。

(4) 施設等検討の状況

問 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください
(1つを選択)



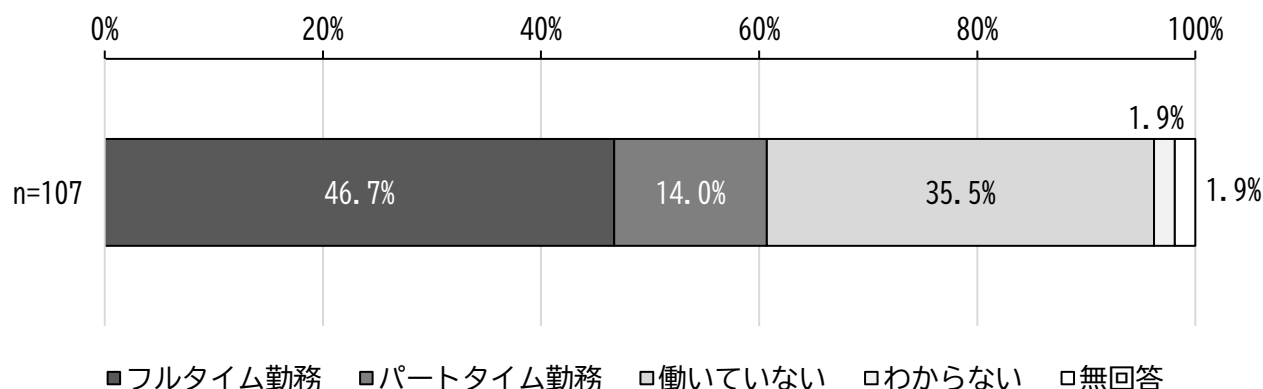
現時点での、施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居は検討していない」が80.2%と最も高く、次いで、「入所・入居を検討している」が17.6%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が1.5%となっています。



施設等の検討状況を要介護度別にみると、「検討していない」の割合は、「要支援1・2」が90.2%で最も高く、「要介護1・2」が84.1%、「要介護3以上」が65.0%となっています。また、「検討中」の割合は、「要介護3以上」が30.0%で最も高く、「要介護1・2」が14.3%、「要支援1・2」が9.8%となっています。

(5) 主な介護者の勤務形態

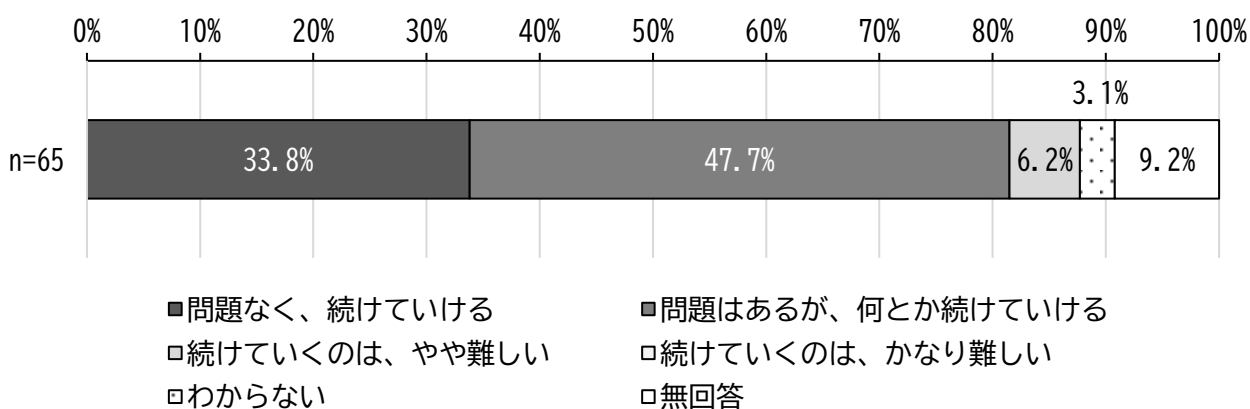
問 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください（1つを選択）



主な介護者の現在の勤務形態については、「フルタイムで働いている」が46.7%と最も多く、次いで、「働いていない」が35.5%、「パートタイムで働いている」が14.0%となっています。

(6) 主な介護者の就労継続見込み

問 「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（1つを選択）

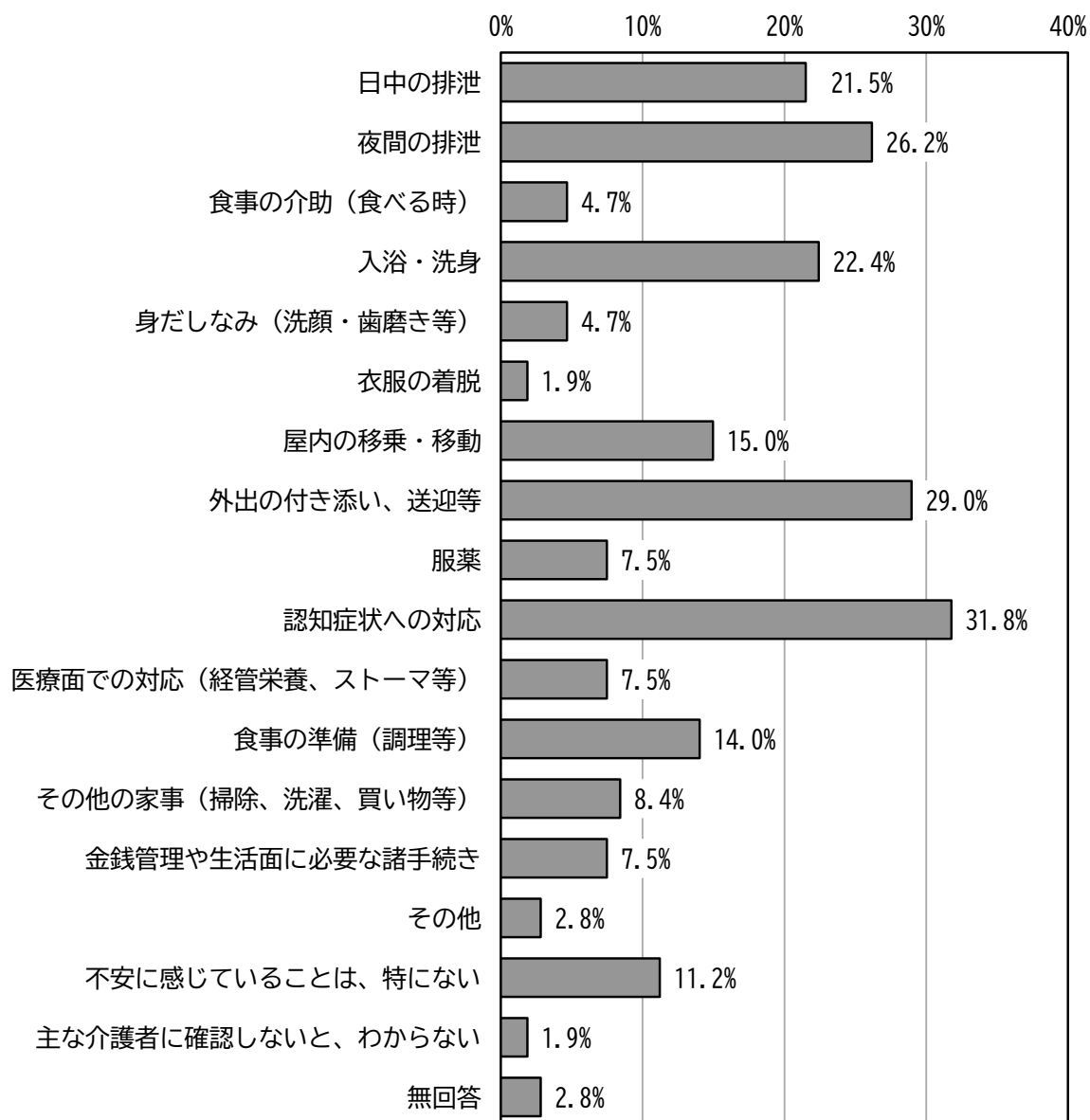


主な介護者の就労継続見込みについては、「問題なく、続けていける(33.8%)」、「問題はあるが、何とか続けていける(47.7%)」を合わせた『問題なく、続けていける（計）』が81.5%に対し、「続けていくのは、やや難しい(6.2%)」、「続けていくのは、かなり難しい(0.0%)」を合わせた『続けていくのは、かなり難しい（計）』が6.2%となっています。また、「主な介護者に確認しないと、わからない」が3.1%となっています。

(7) 主な介護者が不安に感じる介護

問 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）（3つまで選択可）

(n=107)



主な介護者が不安に感じる介護等については、「認知症状への対応」が 31.8%と最も高く、次いで、「外出の付き添い、送迎等」が 29.0%、「夜間の排泄」が 26.2%となっています。

第4章 介護支援専門員調査結果

(1) ひとり暮らし及び日中ひとりになることが多い方の人数

問 担当されている方のうち、次に該当する方は何件いらっしゃいますか

(単位：人)

	プランを立て ている人数	ひとり暮らし		高齢者(65 歳以上) のみ世帯		同居の家族はいるが 日中ひとり	
			割合 (%)		割合 (%)		割合 (%)
合 計	879	165	-	173	-	223	-
平 均	38.2	7.2	17.3	7.5	19.7	9.7	26.7
令和5年度 平 均	33.7	6.1	18.2	6.7	19.8	7.6	22.3

ケアプランの利用者で「ひとり暮らし」は 17.3%、「高齢者(65 歳以上)のみ世帯」は 19.7%、「同居の家族はいるが日中ひとり」は 26.7%となっています。令和5年度調査との比較では、「同居の家族はいるが日中ひとり」が 4.4 ポイント増加しています。

(2) 支援や対応に困難を感じている利用者

問 あなたが担当している利用者の中に、支援や対応に困難を感じている利用者はいますか。(○は1つ)

(単位：人)

	プランを立てている 人数	対象者の有1・無0 (有の割合)	対象者の人数	対象者の割合 (%)
合 計	879	ケアマネ 23 人中 16 人 (69.6%)	39	5.2

※対象者の人数を無回答だった支援員(ケアプラン 124 件担当)の回答を除いた、755 人に対する 39 人の割合

担当している利用者の中に、支援や対応に困難を感じている利用者が「いる」は 16 人(69.6%)で約7割となっています。無回答を除いた対象者の合計人数は 755 人中 39 人となり、支援や対応に困難を感じている利用者の割合は 5.2%となっています。

(3) 高齢者の虐待が疑われるような事例の経験

問 これまで、高齢者虐待が疑われるような事例を経験したことがありますか。(〇はいくつでも)

項 目	令和8年度		令和5年度
	回答者数(人)	構成比(%)	構成比(%)
自分の担当したケースで経験したことがある	11	47.8	46.2
同僚や同業者から話を聞いたことがある	8	34.8	46.2
事業所内やサービス担当者会議で、実際の事例の対応に参加したことがある	7	30.4	19.2
特にそのような経験はない	3	13.0	11.5
無回答	1	4.3	-
合 計	23		

高齢者虐待が疑われるような事例の経験については、「自分の担当したケースで経験したことがある」が47.8%と最も高く、次いで、「同僚や同業者から話を聞いたことがある」が34.8%、「事業所内やサービス担当者会議で、実際の事例の対応に参加したことがある」が30.4%となっています。

(4) 利用者やその家族からのハラスメント

問 過去3年間で、あなたは、利用者やその家族等からの「ハラスメント」を受けたことがありますか。(〇は1つずつ)

項 目	(ア) 身体的暴力		(イ) 精神的暴力		(ウ) セクシュアルハラスメント	
	回答数(人)	構成比(%)	回答数(人)	構成比(%)	回答数(人)	構成比(%)
受けたことがある	1	4.3	9	39.1	2	8.7
受けたことはない	21	91.3	14	60.9	19	82.6
無回答	1	4.3	-	-	2	8.7
合 計	23	100.0	23	100.0	23	100.0

過去3年間で受けたことのあるハラスメントについては、「(イ)精神的暴力について」が39.1%と最も高く、次いで、「(ウ)セクシュアルハラスメントについて」が8.7%、「(ア)身体的暴力について」が4.3%となっています。

<ハラスメントの内容>

(ア) 身体的暴力

(身体的な力を使って危害を及ぼす行為)

(イ) 精神的暴力

(個人の尊厳や人格を言葉や態度によって傷つけたり、おとしめたりする行為)

(ウ) セクシュアルハラスメント

(意に沿わない性的な誘い、好意的な態度の要求、性的ないやがらせなど)

（５）スキルアップを図るために希望する研修

問 あなたは、ケアマネジャーとしてのスキルアップを図るために、どのような内容の研修を希望しますか。（〇はいくつでも）

項 目	回答数（件）	構成比（％）
支援困難事例への対応について	18	78.3
生活困窮者への対応について	16	69.6
介護保険制度や介護保険外の社会資源について	13	56.5
医療との連携について	8	34.8
ケアマネジメント技術・知識について	7	30.4
疾病や医療に関する知識について	7	30.4
虐待や成年後見などの権利擁護について	7	30.4
認知症への対応について	6	26.1
その他	2	8.7
言葉遣いなどの接遇やマナーについて	0	0.0
無回答	0	0.0
合 計	23	

ケアマネジャーとしてのスキルアップを図るために希望する研修については、「支援困難事例への対応について」が 78.3%と最も高く、次いで、「生活困窮者への対応について」が 69.6%、「介護保険制度や介護保険外の社会資源について」が 56.5%となっています。

(6) 充実してほしい介護サービス

問 介護支援専門員として、境町内のサービス利用を計画する際に、以下のうち充実してほしいと感じるサービスはありますか。なお、いずれも要支援者向けの介護予防サービスも含むものとします。(〇はいくつでも)

項 目	令和8年度		令和5年度	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
訪問介護	↓ 9	39.1	21	80.8
訪問入浴介護	12	52.2	14	53.8
訪問看護	↓ 1	4.3	4	15.4
訪問リハビリテーション	7	30.4	8	30.8
居宅療養管理指導	7	30.4	6	23.1
通所介護	3	13.0	1	3.8
通所リハビリテーション	4	17.4	4	15.4
短期入所生活介護	↑ 15	65.2	5	19.2
短期入所療養介護	3	13.0	2	7.7
特定施設入居者生活介護	-	-	-	-
福祉用具貸与	-	-	1	3.8
特定福祉用具販売	-	-	-	-
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	↓ 3	13.0	7	26.9
夜間対応型訪問介護(現在廃止)	↑ 6	26.1	3	11.5
認知症対応型通所介護	10	43.5	9	34.6
小規模多機能型居宅介護	5	21.7	4	15.4
認知症対応型共同生活介護	2	8.7	4	15.4
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	-	-	-	-
看護小規模多機能型居宅介護	4	17.4	5	19.2
地域密着型通所介護	-	-	1	3.8
地域密着型特定施設入居者生活介護	-	-	2	7.7
居宅介護支援(介護予防支援)	↑ 4	17.4	1	3.8
住宅改修	-	-	-	-
合 計	23		26	

※令和5年度から： ↑ = 3件以上増加 ↓ = 3件以上減少

充実してほしいと感じるサービスについては、「短期入所生活介護」が65.2%と最も高く、次いで、「訪問入浴介護」(52.2%)、「認知症対応型通所介護」(43.5%)となっています。令和5年度調査との比較では、回答数が3件(人)以上増加しているサービスは「短期入所生活介護」(10件)、「夜間対応型訪問介護(現在廃止)」、「居宅介護支援(介護予防支援)」(各3件)であり、一方、回答数が3件(人)以上減少しているサービスは「訪問介護」(12件)、「訪問看護」(3件)、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(4件)となっています。

第5章 サービス提供事業者調査結果

(1) 過去1年間の介護職員の採用者数と離職者数

問 過去1年間（令和7年4月1日～令和8年4月1日）の介護職員の採用者数と離職者数を、ご記入ください。いない場合は「0」をご記入ください。（数値を記入）

(n=23)

令和7年4月1日 ～令和8年4月1日	採用者数（人）	離職者数（人）
	62 人 平均（2.70 人）	38 人 平均（1.65 人）

人数の回答をいただいた23事業所の採用者総数は62人となり、1事業所当たりの人数は2.70人となっています。また、離職者数は38人となっており、1事業所当たりの人数は1.65人となっています。その結果、採用者数が離職者数より24人のプラスとなっています。

(2) 採用者と離職者の年代別、正規・非正規別の内訳

問 採用者・離職者について、正規・非正規の別・年齢別をご記入ください。いない場合は「0」をご記入ください。（数値を記入）

年 齢 (採用、離職当時)	採用数（人）		離職者数（人）	
	正規職員	非正規職員	正規職員	非正規職員
20歳未満	2人(4.3%)	0人(-%)	0人(-%)	0人(-%)
20～29歳	18人(39.1%)	1人(8.3%)	6人(28.6%)	0人(-%)
30～39歳	6人(13.0%)	1人(8.3%)	1人(4.8%)	5人(33.3%)
40～49歳	10人(21.7%)	4人(33.3%)	9人(42.9%)	2人(13.3%)
50～59歳	6人(13.0%)	2人(16.7%)	2人(9.5%)	2人(13.3%)
60～69歳	3人(6.5%)	1人(8.3%)	3人(14.3%)	3人(20.0%)
70～79歳	1人(2.2%)	3人(25.0%)	0人(-%)	3人(20.0%)
年齢不明	0人(-%)	0人(-%)	0人(-%)	0人(-%)
(小 計)	46人(100.0%)	12人(100.0%)	21人(100.0%)	15人(100.0%)
正規／非正規別不明	4人		2人	
合 計	62人		40人	

採用者の年齢について、正規職員では「20～29 歳」が 39.1%で最も高く、次いで、「40～49 歳」が 21.7%、「30～39 歳」、「50～59 歳」がともに 13.0%となっています。

非正規職員では「40～49 歳」が 33.3%で最も高く、次いで、「70～79 歳」が 25.0%、「50～59 歳」が 16.7%となっています。

離職者の年齢について、正規職員では「40～49 歳」が 42.9%で最も高く、次いで、「20～29 歳」が 28.6%、「60～69 歳」が 14.3%となっています。

非正規職員では「30～39 歳」が 33.3%で最も高く、次いで、「60～69 歳」、「70～79 歳」がともに 20.0%となっています。

(3) 人材の定着・育成（離職の防止）における取組

問 あなたの事業所では、人材の定着・育成（離職の防止）について、どのような取組みを行っていますか。（○はいくつでも）

項 目	令和8年度		令和5年度
	回答数(件)	構成比(%)	構成比(%)
育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている	18	75.0	81.0
非正規職員から正規職員への登用機会を設けている	15	62.5	71.4
上司や管理職が頻繁に面談を行い、職員の要望や不満を汲み取っている	15	62.5	42.9
職員のスキルアップのため、資格取得の支援をしている	14	58.3	71.4
休憩室や談話室の設置など、職員がリラックスできる環境を整えている	13	54.2	47.6
介護中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている	12	50.0	61.9
永年勤続など一定期間勤めた際の報奨制度を設けている	11	45.8	33.3
近隣の企業や同業他社の給与水準を踏まえ、給与額を設定している	9	37.5	9.5
外部研修に参加できない職員のために、内部研修を充実させている	9	37.5	28.6
働く時間に柔軟性をもたせる、休暇を取りやすくするなど職場環境を整えている（ワークライフバランスの推進）	9	37.5	57.1
能力や仕事ぶりによって、管理職への登用機会を設けている	8	33.3	28.6
新人職員に対し、一定期間、マンツーマンで知識や技能を指導するなどの支援体制を設けている	7	29.2	57.1
仕事のやりがいや、社会的意義を伝えている	5	20.8	42.9
職員への満足度（不満）調査を行い、事業所における課題の把握を行っている	5	20.8	4.8
その他	2	8.3	9.5
特に何も行っていない	-	-	-
合 計	24		

人材の定着・育成（離職の防止）のために行なっている取組は、「育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている」が75.0%と最も高く、次いで、「非正規職員から正規職員への登用機会を設けている」、「上司や管理職が頻繁に面談を行い、職員の要望や不満を汲み取っている」がともに62.5%となっています。令和5年度調査との比較では、10ポイント以上増加している項目は、「上司や管理職が頻繁に面談を行い、職員の要望や不満を汲み取っている」（19.6ポイント増）、「永年勤続など一定期間勤めた際の報奨制度を設けている」（12.5ポイント増）、「近隣の企業や同業他社の給与水準を踏まえ、給与額を設定している」（28.0ポイント増）「職員への満足度（不満）調査を行い、事業所における課題の把握を行っている」（16.0ポイント増）などとなっています。

（４）提供している介護保険サービス

問 あなたの事業所では、以下の介護保険サービスのうちどれを提供していますか。封筒の宛名ラベルの右下に記載されているサービスについてお答えください。なお、いずれも要支援者向けの介護予防サービスも含むものとします。（○は1つ）

項 目	回答数（件）	構成比（％）
訪問介護	3	12.5%
訪問看護	2	8.3%
訪問リハビリテーション	-	-
居宅療養管理指導	2	8.3%
通所介護	3	12.5%
通所リハビリテーション	1	4.2%
短期入所生活介護	1	4.2%
短期入所療養介護	1	4.2%
福祉用具貸与	-	-
認知症対応型共同生活介護	3	12.5%
地域密着型通所介護	2	8.3%
居宅介護支援（介護予防支援）	-	-
介護老人福祉施設	1	4.2%
介護老人保健施設	1	4.2%
無回答	4	16.7%
合 計	24	

提供している介護保険サービスでは、「訪問介護」、「通所介護」、「認知症対応型共同生活介護」が12.5%と最も高く、次いで「訪問看護」、「居宅療養管理指導」、「地域密着型通所介護」がそれぞれ8.3%となっています。

(5) サービス提供量が不足していると思うサービス

問 境町内でサービス提供量が不足していると思うサービスはありますか。なお、いずれも要支援者向けの介護予防サービスも含むものとします。(〇はいくつでも)

項 目	回答数 (件)	構成比 (%)
訪問介護	9	37.5%
訪問入浴介護	6	25.0%
訪問看護	5	20.8%
訪問リハビリテーション	5	20.8%
居宅療養管理指導	1	4.2%
通所介護	1	4.2%
通所リハビリテーション	1	4.2%
短期入所生活介護	5	20.8%
短期入所療養介護	2	8.3%
特定施設入居者生活介護	-	-
福祉用具貸与	-	-
特定福祉用具販売	-	-
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	-	-
夜間対応型訪問介護 (現在廃止)	2	8.3%
認知症対応型通所介護	1	4.2%
小規模多機能型居宅介護	2	8.3%
認知症対応型共同生活介護	2	8.3%
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	-	-
看護小規模多機能型居宅介護	2	8.3%
地域密着型通所介護	1	4.2%
地域密着型特定施設入居者生活介護	-	-
居宅介護支援 (介護予防支援)	1	4.2%
住宅改修	-	-
介護老人福祉施設	2	8.3%
介護老人保健施設	1	4.2%
介護療養型医療施設	-	-
無回答	8	33.3%
合 計	24	

境町内でサービス提供量が不足していると思うサービスは、「訪問介護」が37.5%と最も高く、次いで「訪問入浴介護」(25.0%)、「訪問看護」、「訪問リハビリテーション」及び「短期入所生活介護」(各20.8%)などとなっています。

(6) 事業所の運営において問題となっていること

問 現在、貴事業所の運営において問題となっていることはありますか。(○はいくつでも)

項 目	回答数(件)	構成比(%)
運営コストが大きく利益が出にくい	13	54.2
仕事量に対し、人の確保が追いつかない	12	50.0
質の高い従業員の確保が難しい	10	41.7
介護保険の報酬単価が低い	8	33.3
介護の仕事に対する社会的評価が低い	5	20.8
初期投資が大きく利益が出にくい	4	16.7
従業員の定着率が悪い	4	16.7
人材育成・教育をする余力がない	4	16.7
利用者が散在して効率が悪い	4	16.7
利用者の開拓・確保が難しい	4	16.7
地域における知名度が低い	2	8.3
行政や他機関との連携・交流が薄い	2	8.3
サービス内容の差別化が難しい	1	4.2
利用者への情報提供・PRが難しい	1	4.2
利用者とのトラブルが多い	-	-
他のサービス事業者との競争が激しい	-	-
利用者のニーズが多く対処できない	-	-
その他	-	-
無回答	-	-
合 計	24	

事業所の運営において問題となっていることについては、「運営コストが大きく利益が出にくい」が 54.2%と最も高く、次いで、「仕事量に対し、人の確保が追いつかない」(50.0%)、「質の高い従業員の確保が難しい」(41.7%)、「介護保険の報酬単価が低い」(33.3%) などとなっています。

(7) 在宅生活継続のために必要だと思う支援や施策

問 利用者が、住みなれた地域の中で、在宅での生活を継続的に送るために、どのような支援や施策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

項 目	令和8年度		令和5年度
	回答数 (件)	構成比 (%)	構成比 (%)
配食やごみ出し、買物、外出時の移動などの生活支援サービス	16	66.7	85.7
ひとり暮らし高齢者や、高齢者世帯などに対する見守り支援	15	62.5	81.0
在宅医療・介護連携の強化	12	50.0	61.9
認知症高齢者への支援施策の推進	12	50.0	57.1
安否確認システムの設置支援	8	33.3	42.9
相談窓口や情報提供の充実	8	33.3	57.1
24 時間対応の定期巡回・随時対応型訪問介護看護	7	29.2	66.7
複数のサービスを組み合わせ、一体的に提供する複合型サービス	7	29.2	66.7
高齢者サロン等の集える場所の充実	6	25.0	52.4
無回答	2	8.3	-
その他	-	-	4.8
合 計	24		

在宅生活継続のために必要だと思う支援や施策については、「配食やごみ出し、買物、外出時の移動などの生活支援サービス」が 66.7%と最も高く、次いで、「ひとり暮らし高齢者や、高齢者世帯などに対する見守り支援」が 62.5%、「在宅医療・介護連携の強化」、「認知症高齢者への支援施策の推進」(各 50.0%) などとなっています。

(8) 介護サービス事業を展開するうえで、支援・充実してほしいこと

問 境町内で介護サービス事業を展開するうえで、境町に支援・充実してほしいと思うことはありますか。(〇はいくつでも)

項 目	回答数(件)	構成比(%)
介護人材確保、定着に向けた取り組み	12	50.0
職員の質の向上のための研修の実施	11	45.8
処遇困難者への対応	9	37.5
事業者間の連携強化のための支援	8	33.3
介護保険制度に関する最新・適切な情報の提供	7	29.2
ホームヘルパーなどサービス提供者養成の推進	7	29.2
町のホームページなどを活用した、事業所についての情報提供	6	25.0
無回答	2	8.3
特になし	1	4.2
その他	-	-
合 計	24	

境町内で介護サービス事業を展開するうえで、境町に支援・充実してほしいことについては、「介護人材確保、定着に向けた取り組み」が50.0%と最も高く、次いで、「職員の質の向上のための研修の実施」(45.8%)、「処遇困難者への対応」(37.5%)などとなっています。